

## 5万分の1地質図幅「津西部」

吉田 史郎<sup>1)</sup>

本図幅地域は三重県北部にあって、そのうち布引山地から伊勢平野にかけての地域を含んでいる。図幅西部には布引山地がそびえ、ここには領家変成岩類、柘植層、深成岩・岩脈類など、中生代の岩石類が露出し、山間盆地には瀬戸内中新統(あるいは第一瀬戸内累層群)が堆積している。これとは対照的に、図幅東部はなだらかな伊勢平野によって占められ、ここには瀬戸内中新統に当たる一志層群や東海層群など、多様な後期新生代の堆積岩類が分布している。

布引山地南部に露出する領家変成岩類は、原岩はジュラ紀、変成作用は白亜紀末とみなされる。砂岩泥岩起源の変成岩がほとんどであるが、チャート・石灰岩・塩基性火山岩起源の変成岩もある。

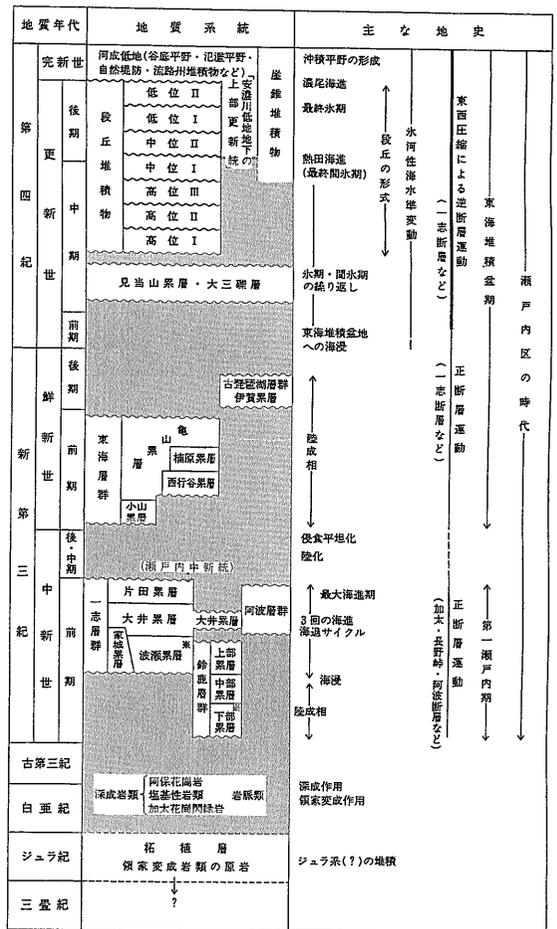
図幅北西部にわずかに分布する柘植層は、美濃帯に属するジュラ系の砂岩と泥岩である。

深成岩や岩脈類はほとんどが布引山地北部に分布しており、塩基性岩類(斑れい岩や石英閃緑岩)、加太花崗閃緑岩、阿保花崗岩、小規模岩脈類からなる。これらは領家帯花崗岩類の一部に当たり、ほとんどが白亜紀に形成されたものである。

瀬戸内中新統は鈴鹿層群(陸成-浅海成)、阿波層群(海成)、一志層群(海成)からなる。鈴鹿層群と阿波層群は山間盆地に堆積している。伊勢平野に露出する一志層群と東海層群の分布は一志断層によってはっきり分かれており、東海層群は一志断層の東側だけ分布している。山間盆地や一志層群縁辺部には多くの場合、断層が発達している。

東海層群は河川成-湖成で、比較的柔らかい泥・砂・礫からなる。このほか伊勢平野には、見当山累層や段丘堆積物などが堆積している。特に段丘は伊勢平野の丘陵周辺に広く発達している。

一志断層や山間盆地縁辺部の断層の活動期は、中新世、鮮新世、第四紀、あるいは繰り返して活動し



第1図「津西部」図幅地域の地質総括図

たもの、とさまざまである(第1図参照)。

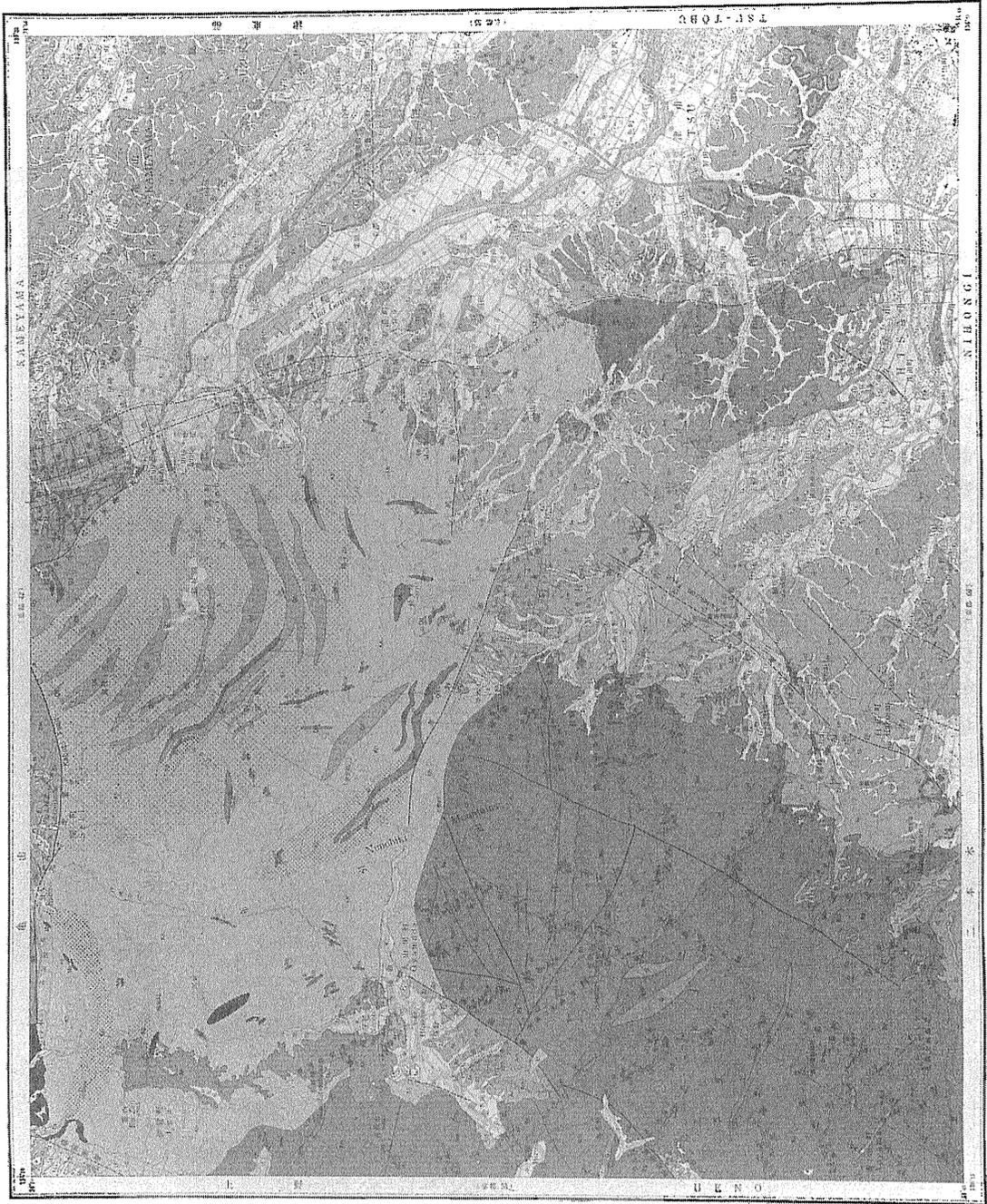
### 一日巡検コース(津市方面から)

ストップ1—津市半田から久居市藤ヶ丘町に至る道路沿い

みどころ：阿漕火山灰層の岩相とみがき砂の採掘  
ストップ2—津市片田志袋町近辺

1) 地質調査所 大阪地域地質センター

キーワード：領家帯、美濃帯、瀬戸内中新統、東海層群



第2図 5万分の1地質図幅「津西部」

みどころ：長谷山東縁を通過する一志断層の遠望、それに伴う東海層群の変形、東海層群亀山累層・小山累層の岩相  
ストップ3—白山町茶屋の前の国道165号線沿い  
みどころ：一志層群三ヶ野層の岩相と貝化石  
ストップ4—布引山地の青山高原道路

みどころ：布引山面の俯瞰  
ストップ5—大山田村馬野溪付近  
みどころ：領家変成岩類の岩相  
ストップ6—芸濃町覚ヶ野から錫杖湖の道路沿い  
みどころ：加太花崗閃緑岩及びそれに伴う塩基性岩類の岩相